（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2272100583		
法人名	医療法人財団　百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉二の宮		
所在地	富士宮市北町14－5		
自己評価作成日	平成26年1月7日	評価結果市町村受理日	平成26年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2272100583-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5－8　マルシメビル6階
訪問調査日	平成26年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

湖山医療福祉グループ理念の「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を常に意識しお客様、ご家族様の立場になって支援しています。こやまケア＝笑顔の中で生き生きと暮らせるケアを行動方針に則って実践しており、職員は優しい声掛けと対応ができています。先輩職員は後輩職員に対しプリセプター制度で優しく丁寧に指導をしています。その成果はしっかりと現れ、チームワークがよく笑顔あふれるグループホームになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

プリセプター制度が定着し、内外の研修を積み重ね培われた揺るぎない視点は、目上の人への敬意と柔和なまなざしとなってフロアに溢れています。喀痰吸引研修の指導も受け、重度化への取組みも始めています。日ごと食欲も落ちてゆく利用者が生まれ育った場所の話をする姿に「今連れて行ってあげたい」との想いから故郷へのドライブが叶い、立ち寄った寿司店で見せた食欲に驚きと嬉しさが倍増して忘れられない一日となりました。職員の熱意から企画されたことに管理者は成長と頼もしさを感じています。ISO9001を取得して継続の年、新たな目標に向け職員のさらなる成長が期待される事業所です。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	湖山グループの理念・行動指針・こやまケア行動方針を常に念頭におき実践している。GH理念「お客様が共によりそい生活する」ことができるように努力している。	グループ理念、行動指針は職員全員が諳んじて言うことができます。10項目あるケア行動指針のうち課題と捉える項目について取り上げて話し合っています。「声かけと対応に優しさがある」と管理者は感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二の宮区の夏祭りの会場として施設を開放している。秋宮では3日間の内2日踊り等の披露があり楽しい時間を過ごすことができた。どんど焼きの計画書を区長様がお持ちくださり参加させていただいた。	地域行事では地区長の惜しみない協力を得られていることから、「私達にできることはないか」と考え、踊りの練習場として開放したり、祭り当日は救護室を設け看護師が待機するなど双方向の交流が叶っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	富士宮東高校福祉科の実習を受け入れをした。地域向けの勉強会の開催は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・民生委員の方、市職員の方、また本年度よりご家族様代表で2人参加いただきグループホームの報告をし、ご意見をいただいている。	2ヶ月ごとに定期開催し、市職員からは防災対策について細かい助言があるため訓練に活かしています。家族の参加も増え、また地区のリーダーからは行事のお知らせも入り、良好な関係が継続されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では毎回ご出席いただき報告とご指導をいただいている。	運営推進会議には毎回の出席があり、防災対策には「内服薬のストックは？」と、具体的なアドバイスがもらえています。またグループホーム部会では地域包括支援センターの助言もあり、協力関係がみられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束はしないことを徹底している。玄関の施錠、ドアの施錠もせず、スピーチロックもないケアを徹底している。	内部研修でゼロ宣言を慣行するなか、骨折事故をきっかけに職員全体で改めて振り返りました。リスク回避のための安易な拘束に頼らず、環境面を工夫して取組むことで意識が高まっています。丁寧な言葉遣いからは利用者に寄り添う気持ちが表れています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内研修、職員会議等で研修に参加、実施している。虐待は絶対にしない、おこさない、みのがさないように指導している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が学び理解をするに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重説の内容を説明しご理解いただいてからご入居していただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本年度初めて法人統一のアンケートを実施した。回収先を法人管理部とすることで率直な意見が聞けるよう配慮した。アンケート結果は12月に配布、掲示をした。	運営推進会議への出席が増え、家族会では食事を一緒に摂りながら対話に努めています。アンケート結果は掲示され、笑顔が少ない職員への指摘には接遇研修を行い、サービスマナーの標準化を図っています。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・運営会議・部署会議で意見、提案をしてもらっている。運営会議では百葉の会事業部長も出席するときもあり直接質問や意見ができるようにしている。	日頃から様々なアイデアが出され、会議で検討しています。部署会議は全職員が出席し自由に話し合える場となっています。個人面談は年2回実施され、運営会議において目標の進捗状況を確認し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理システム、職員実務評価表、定期面談などで力量を把握し賞与・昇給査定に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には各種研修があり適切な研修に業務扱いで参加している。研修報告書で研修の成果、理解度を把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH連絡会に加入し新年会・合同運動会・研修など交流がある。法人内研修では他事業所のGH職員と共に学ぶ機会がある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの要望を取り入れるよう努めているが、認知症等で聞き取りが困難なため、家族からの情報や訴えが優先されるケースも多い。本人の呟きは表情は見逃さず、職員全体で共有し、ケアに反映できるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学をすすめ、ご家族様からご意見やご要望が聞きだせるよう努力している。また、ケアマネージャーから情報を得るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の現状をしっかりと把握し、今、どのような支援が必要かを検討している。またGH入居がその方にとって最善の方法であるのかを見極め助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様とそのご家族にとってのグループホームの役割を常に問い、暮らしを共にするという姿勢を大切に考えているが時として、業務が優先されてしまう場面のあることも否めない。身体的な低下から家事をすることが難しい方も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほぼ毎日お越しくださるご家族様もいるが都合によりお越しいただけないご家族様もいる。日々の状況を共有し、本人にとって良い方向性を探っていける関係性を継続してくために努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊など、一緒に過ごせる時間を持てるようお願いしている。また職員との個別外出を実施し希望される場所への外出は支援していきたい。面会は時間を制限していない。DSに友人がいる方は会えるようにお声かけをしている。	高齢化に伴って友人の訪問も少なくなりつつありますが、カラオケや囲碁が好きな人は併設デイサービスで楽しんでいます。一日の大半をかけて新聞に目を通す人には、自室での静かな空間作りに配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように配慮している。食事・レクなどを通じ関わり合える時間も大切にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居のケースはなし。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人主体の暮らしが出来るようにと考えるが言葉での訴えが少ない。日々の暮らしの中で発せられる言葉や表情から、気づければ記録におとしている。担当を決め細かなことに気づけるようにしている。	一対一でゆっくり話ができる入浴や夜勤時には多くの言葉が聞かれ、寄り添うことで想いを汲み取っています。家族からの情報取集を含め今後はアセスメントにセンター方式の導入を考えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様からの聞き取りなどから、これまでの生活や馴染みの暮らし方を探り、これからの生活の楽しみにつなげていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを繰り返すことにより、先入観にとらわれず現状を把握している。また健康状態の把握に常に努め、異変を見逃さないよう注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様の担当職員を決め、職員全体で検討し介護計画にいかしている。センター方式から介護計画書につなげることができるよう試験中。	モニタリングは四半期毎、見直しは定期のほか状態変化に応じて都度行っています。担当職員からの意見や記録をもとにカンファレンスし、また活動性が低い人へのアプローチ材を共有する仕組みもあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者が昼間帯、夜勤者が夜間帯の様子や気づき、行動等を細かく記録し、情報の共有をすると共に、朝夕の申送り時に報告し日々の介護に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の持つ多機能性やネットワークを活かし、お客様やご家族様の要望に応じた柔軟な対応ができるよう意識している。また、併設のデイサービスとの連携により、慰問や季節の行事など、楽しんでいたいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元二の宮区が祭り時に来てくださりお客様が大変喜んでくれている。地域のボランティア・幼稚園・趣味の団体等、施設外の方との交流があり、その支えの中で、生活できていると考え感謝している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時は併設のデイサービス看護師に報告し、確認してもらっている。また、月に一度の往診、訪問看護師が体調不良時と週に1度の訪問があり全利用者の状況把握とアドバイスなどを受けている。	訪問看護を通し24時間医師からの指示が得られるため、ほとんどが協力医に変更しています。薬箱の仕組みを変えることで、飲み忘れを防ぐ取組みもあります。往診の記録は業務日誌と申し送りに記録しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の変化に留意し、必要に応じ併設のデイサービス看護師に確認している。また、週に一度訪問看護師の訪問があり、全利用者の状況把握とアドバイスなどを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限り職員が見舞い、退院後スムーズに元の生活に戻れるよう支援している。退院時は職員が対応している。早期退院と受け入れの可能性を探り、出来る限りダメージを少なくするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応では、知識・判断力が問われるため不安や負担を感じる職員もいる。（特に夜勤帯）。主治医や看護師と連携し、相談している。看取り、急変時に対応できる職員の育成が必要。	急変で逝去した利用者があり新人を含む職員の不安感が募るなか、「万が一の時には駆けつける」との看護師の心強い言葉に、チームとして向き合い気持ちをひとつにして態勢を整えています。メンタルケアは死生観の確立も含め今後の課題です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度緊急マニュアルを改訂、離設事故は本年度改訂し周知した。ノロ（嘔吐・下痢時）の処理は常勤職員全員が研修で学び同じ手順でできる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の訓練でWCの方も階段からの避難や煙訓練をなど実践に即したものを行った。消防署よりし少人数でもお客様を下すことができる訓練をするよう提案あり実施した。ボランティアさんも消火訓練に参加してもらった。	毎月防災委員が中心となり通報訓練や発電機、炊き出しと、テーマを決めて併設事業所と合同訓練を実施し、反省点をあげて次回に活かしています。煙体験は地域の人にも回覧板でお知らせし、参加もありました。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア行動方針に伴う対応を心がけ、不適切な対応がないようにしている。	『こやまケア委員会』で接遇について話し合い、自己チェック表を用い向上を目指しています。同性介助の要望にも応えており、どの職員も行動前の声かけが実践され、居室ドアは必ず閉める配慮が成されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が表出し易いようお客様との良い関係を保つ努力をしている。自己決定が出来るように、選択し易いような言葉がけに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは概ね決まっており、その中でも本人の心身の状態を考慮し一人ひとりのペースを守っていけるよう支援している。介護度の高いお客様も多く、時に職員側の都合が優先されてしまうこともあるが無理強いは決して行っていない。、特定の方に介護の時間がかかるところがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことが難しい方には職員がその人らしさと大切にコーディネイトしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食、職員と共に食卓を囲んでいる。できる方には皮むきや盛り付け食器拭き等、お話しをしながら一緒に楽しみながら行っている。季節に応じた行事食や外食などでは、お好きなもの選んでいただいている。	食材は業者配達ですが、彩も含め意見を反映させています。クリスマスプレゼントのランチョンマットにはイニシャルが見られ温かみが伝わります。食器拭きに励む利用者への「ありがとう」の声が笑顔を引き出します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの能力に応じ、嚥下等の状態に合わせたバランスの良い食事を提供し、摂取状況を記録している。水分量のチェックを行い、毎日のゼリーを含め一日を通じて必要量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員介助または見守りの中行っている。また週一回歯科衛生士の訪問、月一回の歯科医師の受診を受け、口腔状態の維持向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助の方2名はおむつを使用しているが清潔の保持に努めている。排泄パターンを把握し適宜誘導することで、失敗のない排泄に向けた支援を行っている。	車椅子の人もできる限りトイレに座ることで〝快〟のある支援をしています。「日中は布パンツで」と経済的負担への考慮もあります。羞恥心への配慮で締め切ったトイレは夏場、熱気が籠るため扇風機をつけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品や水分摂取に心がけ、また、毎日の体操や散歩など活動的に過ごしていただくことで自然排便を促している。また、食後の自家製ヨーグルトは好評であり、できるだけ薬に頼らない排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ1日おきに入浴をしていただいている。ご希望があれば毎日入浴もできる。午前に入浴することでその後を快適に過ごせる方もいるので対応している。お一人づつ好みの温度で入浴していただいている。	毎日お湯を張り一日おきをめやすとして、入浴できない日は足浴を行っています。重度化が進みましたが、職員二人介助でゆっくり浴槽につかる満足感を大事にしています。柚子や蜜柑を浮かべる日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンにあわせ就寝の支援をしている。お部屋で読書をされてから休まれる方、畳で職員が側にいることで安心される方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや間違い等ないようにWチェックを行い確実に服用していただいている。血圧の変動のある方には細目にバイタルをはかっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの持っている力が発揮できるよう、仲間作りなどに配慮し、生活にメリハリを持っていただきたいと考える。しかし、全体的に意欲・活動性が低下している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や催し物への参加、季節を見つけにドライブなど、対応している。 個別外出も企画し喜んでいただけているが本年度はあまり実施できなかった。ご家族さまとの外出はあまり多くなく決まったお客様だけになっている。	寒い時期でも天気の良い時にはできるだけ外気浴を行います。広告を見ている利用者の要望に沿って買い物に出かけたり、生まれ故郷への外出で昔を懐かしみ、少食な利用者が寿司を完食したことは職員の喜びにも繋がっています。	本人の想いを汲み取った個別外出支援が継続されることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かる形をとりながら、買物や外出時などに支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時ご希望により手紙や電話の支援をしている。お手紙が届くケースも多く、お返事を書くお手伝いをさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面にはお客様の写真などを飾り、清潔で居心地の良い空間となるよう努めている。	雨天でも室内歩行で機能訓練ができるほど、充分な広さがあります。壁には行事ごとの写真が貼り巡られて一人ひとりの笑顔に、見る者の表情もほころびます。一日2回換気を徹底し、夜勤職員が床やコンタクトポイントを念入りに清掃しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ベンチやソファーが設置されている。お一人で、あるいは気の合うお仲間と、思い思いにお好きなように過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご家族様に使い慣れた馴染みの家具の持込を依頼している。御仏壇やご家族の写真や趣味の作品などを配置し、その人らしい空間の提供を心がけている。	位牌や仏壇、敷き詰められたカーペットと手芸が取組めるテーブル、アルバムなどその人が落ち着く空間が確保されています。新規利用者にもトイレの場所がわかりやすいよう、ベッドと入口の位置が検討されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の拠点が建物の2階であり、外との隔たりを感じる。広いフロアを生かしてホール歩行や運動するスペースとして活用している。今の環境の中で工夫し、支援していきたい。		